

# 「もんじゅ」は、いま

## 改造工事を安全第一で進めています

### 改造工事には安全第一で取り組んでいます

昨年9月から改造工事に着工し、安全第一で改造工事に取り組み、3月6日には、ナトリウム漏えい箇所の配管の取替え作業も開始しました。2月末現在の工事の進捗率は、約50%です。

これからも安全を最優先に、透明性を確保し、品質管理に万全を期しながら、改造工事を進めてまいります。

### 長期間停止していましたが、再起動を目指し頑張っています

「もんじゅ」は、再起動に向けて慎重に各設備の点検を確実に行うとともに、運転再開に向け研修や教育訓練も着実に進めています。

「もんじゅ」は10年間停止していますが、長期間にわたり原子炉が停止し、その後再起動し、順調に運転している例としては、米国のブラウンズフェリーの3号機（10年8ヶ月）、2号機（6年8ヶ月）があり、1号機は22年以上の停止期間を超えて運転再開を目指しています。

また、国内でも、原子力船「むつ」の15年7ヶ月間の長期停止の後、再起動した例もあります。

### 「もんじゅ」の早期の運転再開を目指します

昨年10月に閣議決定された原子力政策大綱において、「もんじゅ」については、以下のように示されています。

『「もんじゅ」等の成果に基づいた実用化への取り組みを踏まえつつ、ウラン需要動向等を勘案し、経済性等の諸条件が整うことを前提に、2050年頃から商業ベースでの導入を目指す。』また、研究開発の場の中核と位置付けられる「もんじゅ」の運転を早期に再開し、国際的な研究開発協力の拠点として整備し、国内外に開かれた研究開発を実施し、その成果を国内外に発信していくべきとされています。

### 世界から「もんじゅ」は期待されています

高速増殖炉の先進国であるフランス、ロシア、中国などからは「もんじゅ」の早期の再起動への期待と共に共同研究の申し出があります。

また、先月15日に福井市で開催された「次世代原子炉フォーラム」で「もんじゅ」と同じナトリウム冷却型の原子炉に関して、日本、米国、フランスと研究協力の協定を締結し世界から大きく期待されています。

### 高速増殖炉は現在、世界で研究開発が進められています

フランス（原型炉フェニックス；運転中、2020年に次世代炉原型炉の運転を計画）、ロシア（原型炉BN600；運転中、実証炉BN800；建設中）、インド（実験炉FBTR；運転中、原型炉PFBR；建設中）などのように、高速増殖炉の建設・運転は行われており、精力的に研究開発に取り組んでいます。

このように、世界各国において高速増殖炉の建設・運転は行われていますし、近年その重要性の認識は高まっています。

### 「もんじゅ」の裁判（行政訴訟）で設置許可は問題ないと認められています

「もんじゅ」の原子炉設置許可処分は無効確認を求め、1985年に福井地裁に提訴された「もんじゅ行政訴訟」は、昨年5月の最高裁の判決において「国の安全審査に見過ごせない過誤や欠落があったとは言えず、設置許可は違法ではない。」とされ、国側の勝訴が確定しました。

## 私たちが再開に向け取り組んでいます



### 「もんじゅ」に関連する正確な情報をお届けします

最近の「もんじゅ」を取り巻く状況についてまとめました。さらに詳細な情報については、原子力機構のホームページ(www.jaea.go.jp)に掲載しております。

また、メールマガジンも発行しています。ご希望される方は登録いただければ配信させていただきます。

その他疑問点がございましたら、敦賀本部広報課までお問い合わせいただければ、回答させていただきます。



独立行政法人

日本原子力研究開発機構

敦賀本部 業務統括部 広報課